■三社大神社の手水鉢

三社大神社にある手水鉢（参拝する前に手を洗うための水鉢）には 18 名の名前が刻まれている。彼らは、三社大神社に手水鉢を寄贈した者である。その 18 名の中に中村姓 4 名の名前が刻まれていた。彼ら 4 名前は先頭に刻まれていることから、中村一族が氏子の中心となって三社大神社に奉仕していたことがわかる。

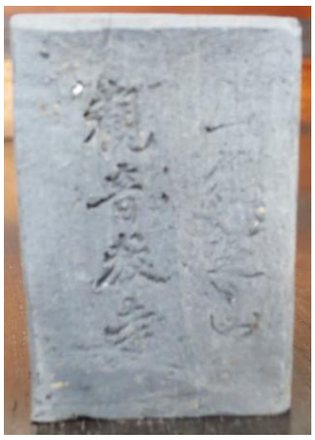
（右から）中村四郎左衛門、同 與左衛門、同 武兵衛、同 清七

● 神棚の灰仏 ●

中村家の神棚には、神札だけでなく仏像などのお守りも飾られている。灰仏とは灰仏とは、古い仏像や経典を焼いた灰に粘土を混ぜ、型にはめて造った仏像である。室町時代に記念品として、一時期作られていた。江戸時代になると、お守りとしての役割が強く、多くの寺社で作られ、門徒や檀家に配られた

■目護摩灰像

護摩とは仏教、特に密教における修法で、「焼く」「焚く」の意味がある。護摩で焼いた仏像や経典で作られたものが護摩灰仏である。



■金剛力士像

仏教では、守護神とされている。阿形と吽形の二体を一対として寺院の表門などに安置される。

■しゃもじ

日本の民間信仰において家族の食事の支度をする女性、つまり主婦の象徴とされてきた。これが広く「女性の象徴」とみなされた。このしゃもじには、「八ヶ岳山」という文字が焼かれている。神話において、八ヶ岳には磐長姫という女神が祀られている。つまり、「磐長姫」と女性の象徴である「しゃもじ」が結びつけられ、豊穣多産を願うお守りとして作られたと考えられる。